

I 根室管内の子牛死廃と疾病の現実

1 子牛死廃事故の実態

(1) 意外と多い子牛の死廃

根室管内では月に6,000頭の子牛が生まれ、うち実に400頭もの子牛が死廃となっています。これは生まれた子牛の約7%が死んでいることになり、死廃事故の目標値が3%以内といわれている中、高い数字と言わざるを得ません。

(2) 死廃事故による経済的損失

図1は、生後180日齢までの死廃事故を出生後日数別で示したグラフです。死廃事故頭数のうち、出生日および胎児死が67%と最も多くなっています。

こうした死廃事故は直接的な又し仔（1頭3万円程度）の損失だけでなく、成牛の周産期疾病や分娩後の泌乳の立ち上がりに影響を与えます。飼養管理の見直しや分娩時管理の方法の改善などで、避けられる死廃も多いのではないのでしょうか。

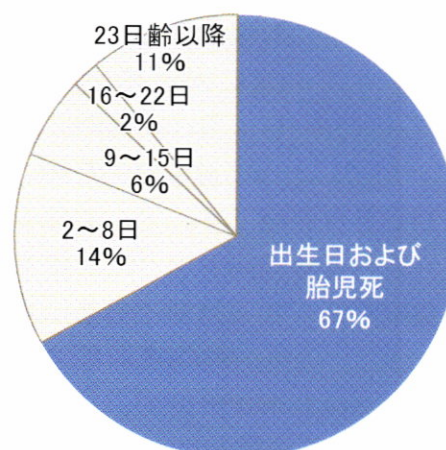


図1 出生後日数別死廃事故割合
(NOSAIデータ H24.12～H25.11根室管内)

2 子牛の病傷事故発生状況

(1) 子牛の2大疾病

図2は、子牛共済に加入している根室管内の病傷事故発生状況です。消化器病が57%、呼吸器病が34%となっており、この2つの病傷が子牛の診療事由の9割を占めます。

(2) 子牛を病気にさせないために

消化器病や呼吸器病を防ぐために、次の点を見直してください。

- ①親から免疫をしっかり受け継ぐための初乳給与
- ②子牛を病原菌にさらさないための衛生管理
(クリーン&ドライの飼養環境、ほ育器具の衛生管理など)
- ③子牛が快適に育つ飼養環境
(換気、寒冷対策、暑熱対策など)

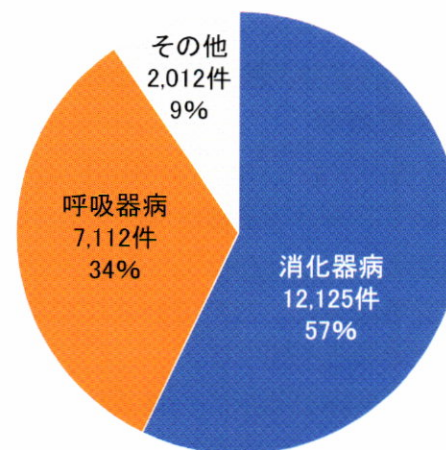


図2 子牛の病傷事故発生状況(子牛共済加入分)
(NOSAIデータ H24.12～H25.11 根室管内)

この資料では、以上のような、子牛を病気にさせないための技術について紹介します。